

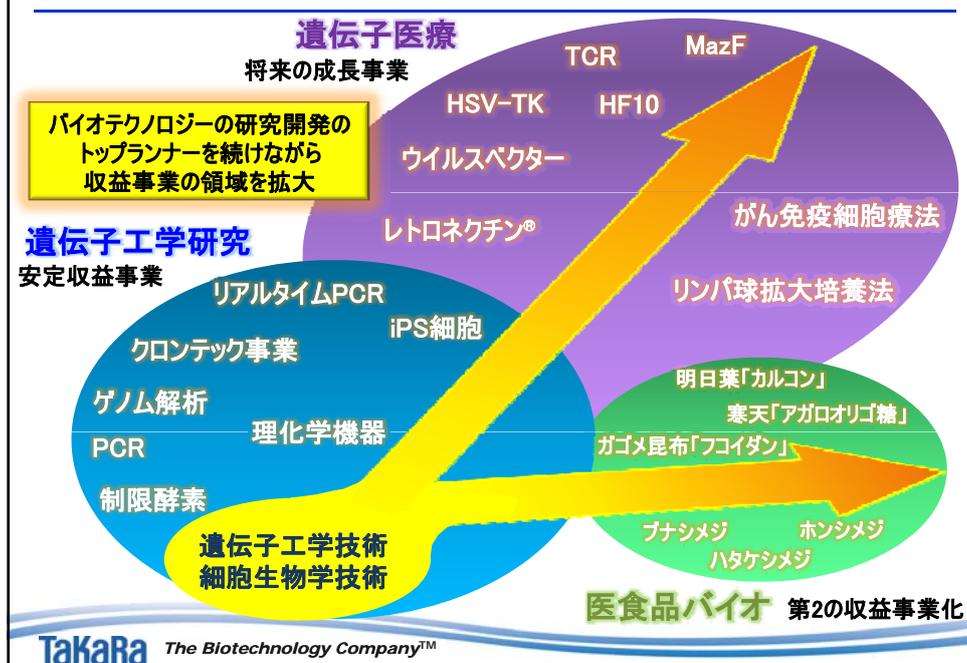
2011年3月期 第2四半期決算説明会

業績レビュー

今後の重点戦略および施策

2010年11月9日

タカラバイオグループの基本戦略



11/03期 第2四半期 連結業績

(単位:百万円)

	2010年 4~9月	期初予算比		前期比	
		増減	増減率	増減	増減率
売上高	8,443	▲146	▲1.7%	▲247	▲2.9%
売上原価	3,960	▲257	▲6.1%	▲150	▲3.7%
売上総利益	4,483	+111	+2.6%	▲97	▲2.1%
販売費及び 一般管理費	4,288	▲347	▲7.5%	▲301	▲6.6%
営業利益	194	+458	—	+203	—
経常利益	226	+463	—	+110	+94.9%
当期純利益	▲134	+226	—	▲173	—

TaKaRa The Biotechnology Company™

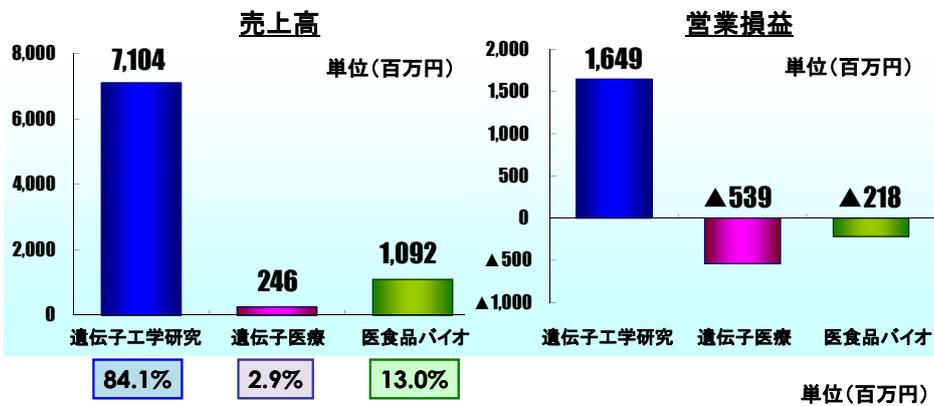
11/03期 第2四半期 セグメント別売上高(連結)

(単位:百万円)

	2010年 4~9月	期初予算比		前期比	
		増減	増減率	増減	増減率
研究用試薬	5,140	▲27	▲0.5%	▲52	▲1.0%
理化学機器	801	▲200	▲20.0%	▲423	▲34.6%
受託	705	▲73	▲9.4%	+12	+1.9%
その他	456	+30	+7.1%	+24	+5.7%
遺伝子工学研究	7,104	▲270	▲3.7%	▲438	▲5.8%
遺伝子医療	246	+62	+34.3%	+81	+49.3%
健康食品その他	330	+33	+11.4%	▲66	▲16.7%
キノコ	762	+27	+3.7%	+175	+30.0%
医食品バイオ	1,092	+61	+5.9%	+109	+11.1%
売上高合計	8,443	▲146	▲1.7%	▲247	▲2.9%

TaKaRa The Biotechnology Company™

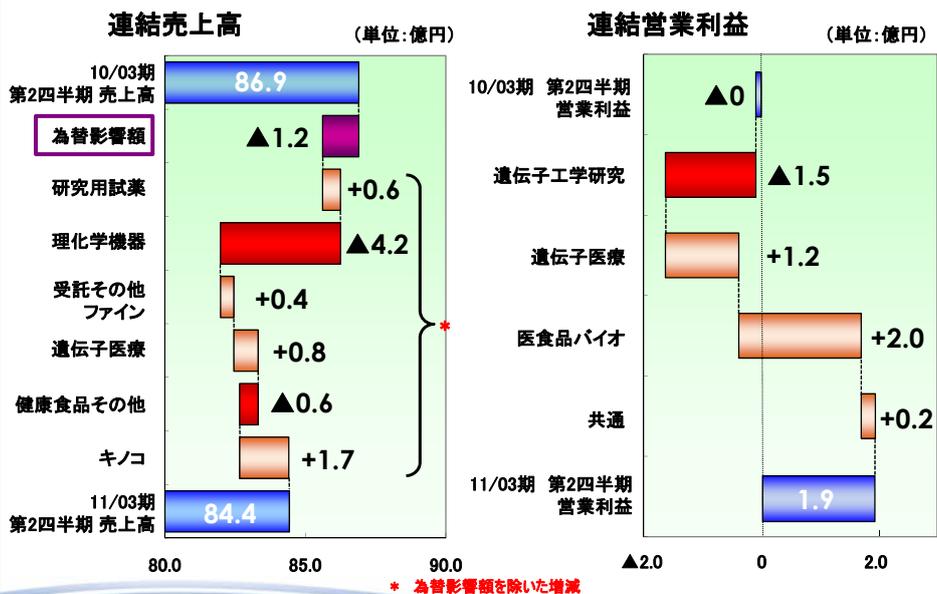
11/03期 第2四半期 セグメント情報(連結)



	遺伝子工学研究	遺伝子医療	医食品バイオ	共通	計
売上総利益	4,234	111	136	0	4,483
研究開発費	444	566	151	77	1,240

TaKaRa The Biotechnology Company™

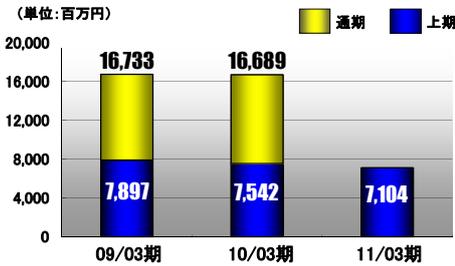
11/03期第2四半期 売上高・営業利益(連結) <前期比増減>



TaKaRa The Biotechnology Company™

セグメント別売上高(連結) 遺伝子工学研究分野

連結売上高



11/03期 第2四半期実績

- ・質量分析装置が前期比▲4.1億円となり、理化学機器の売上が減少(前期比▲4.2億円)
- ・研究用試薬は、為替の影響(▲1.1億円)などにより、売上が減少(前期比▲0.5億円)

研究用試薬の外部売上高

(単位:百万円)

	'09年4-9月実績	'10年4-9月実績
日本	2,163	2,043
米国	1,593	1,540
欧州	703	619
中国	564	736
韓国	168	201

為替の影響(前期比): 米国▲0.7億円 欧州▲0.3億円
中国▲0.3億円 韓国+0.2億円

クロンテック社製品の外部売上高

(単位:百万円)

	'09年4-9月実績	'10年4-9月実績
	2,172	2,072

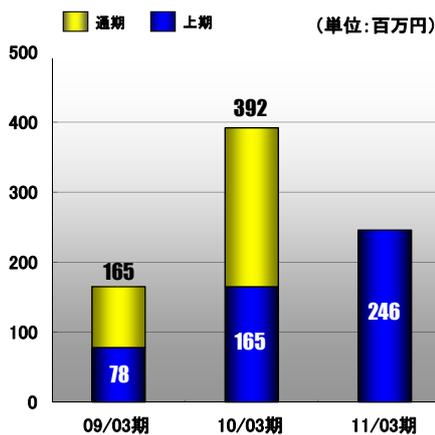
為替の影響(▲0.7億円)等を含む売上減▲0.9億円

中国国内 売上高



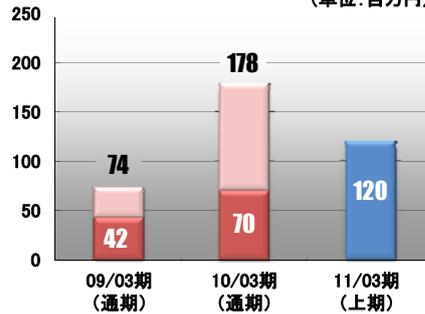
Takara The Biotechnology Company™

セグメント別売上高(連結) 遺伝子医療分野



中国における培地・バッグの売上高

(単位:百万円)



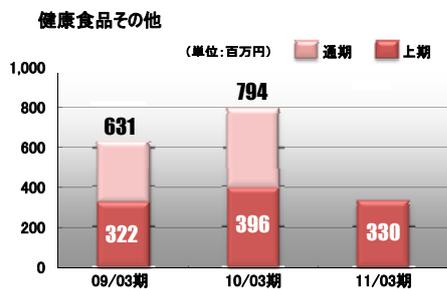
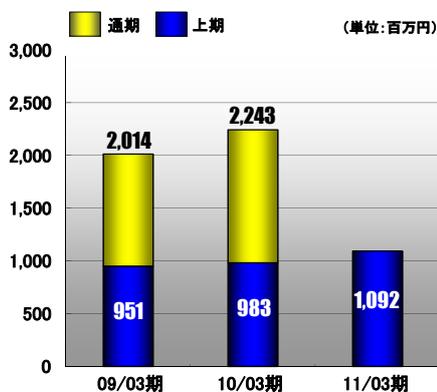
11/03期 第2四半期実績

- ・中国でのがん免疫細胞療法向け培地・バッグの売上が引き続き増加(前期比+0.5億円)
- ・百万瀬クリニックへの技術支援サービスの売上増(前期比+0.3億円)



Takara The Biotechnology Company™

セグメント別売上高(連結) 医食品バイオ分野



11/03期 第2四半期実績

- ・残留農薬検査事業の縮小による健康志向食品事業の売上減(前期比▲0.6億円)
- ・ハタケシメジ/ホンシメジの自社全量販売の開始によるキノコ事業の売上増(前期比+1.7億円)

TaKaRa The Biotechnology Company™

タカラバイオ株式会社

2011年3月期 通期修正見込 今後の施策について

TaKaRa The Biotechnology Company™

11/03期 通期業績見込 (連結)

(単位:百万円)

	11/03期 見込み	期初予算比		前期比	
		増減	増減率	増減	増減率
売上高	18,900	▲450	▲2.3%	▲425	▲2.2%
売上原価	8,839	▲281	▲3.1%	▲447	▲4.8%
売上総利益	10,060	▲168	▲1.7%	+21	+0.2%
販売費及び 一般管理費	9,260	▲168	▲1.8%	▲225	▲2.4%
営業利益	800	±0	±0%	+246	+44.6%
経常利益	1,000	±0	±0%	+135	+15.6%
当期純利益	600	±0	±0%	+9	+1.6%

TaKaRa The Biotechnology Company™

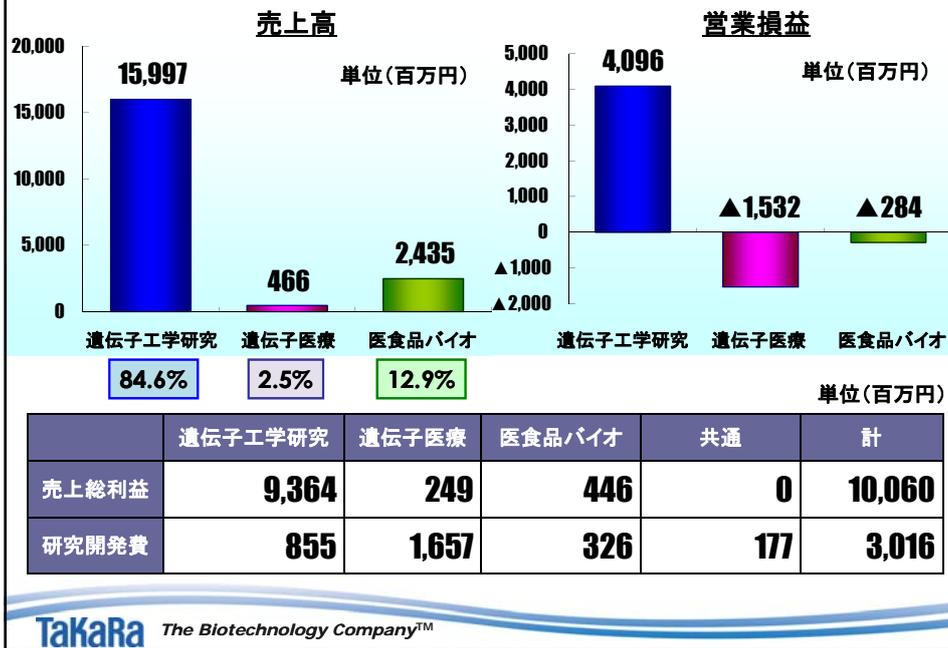
11/03期 通期売上高見込(連結)

(単位:百万円)

	11/03期 見込み	期初予算比		前期比	
		増減	増減率	増減	増減率
研究用試薬	11,070	▲340	▲3.0%	▲93	▲0.8%
理化学機器	2,158	▲175	▲7.5%	▲598	▲21.7%
受託	1,810	▲60	▲3.3%	+27	+1.5%
その他	958	▲20	▲2.1%	▲27	▲2.8%
遺伝子工学研究	15,997	▲597	▲3.6%	▲691	▲4.1%
遺伝子医療	466	+81	+21.1%	+73	+18.8%
健康食品その他	624	+14	+2.4%	▲169	▲21.3%
キノコ	1,810	+50	+2.9%	+361	+24.9%
医食品バイオ	2,435	+65	+2.8%	+191	+8.6%
売上高合計	18,900	▲450	▲2.3%	▲425	▲2.2%

TaKaRa The Biotechnology Company™

11/03期 通期連結業績見込 セグメント情報



研究開発費(連結)の増減の内訳

<11/03期 第2四半期 実績>

(単位:百万円)

	研究開発費	期初予算比	前期比
遺伝子工学研究	444	▲15	▲14
遺伝子医療	566	▲158	▲73
医食品バイオ	151	▲32	▲171
共通	77	▲11	▲2
合計	1,240	▲217	▲262

遺伝子工学研究

・為替の影響によるクロンテック研究開発費の減少(通期見込▲69百万円)などにより、期初予算比▲58百万円となる見込み

遺伝子医療

・第2四半期は、経費執行の期ずれなどにより、期初予算比▲158百万円
 ・HSV-TKやTCR遺伝子治療の臨床研究において治療が始まるなど、研究開発はほぼ計画通りに進捗
 ・通期は、新プロジェクト(HF10)の導入などにより、期初予算比+36百万円となる見込

医食品バイオ

・研究開発投資の効率化、4月に実施した組織の統廃合/人員異動の効果などにより、計画以上に研究開発費の削減が進捗

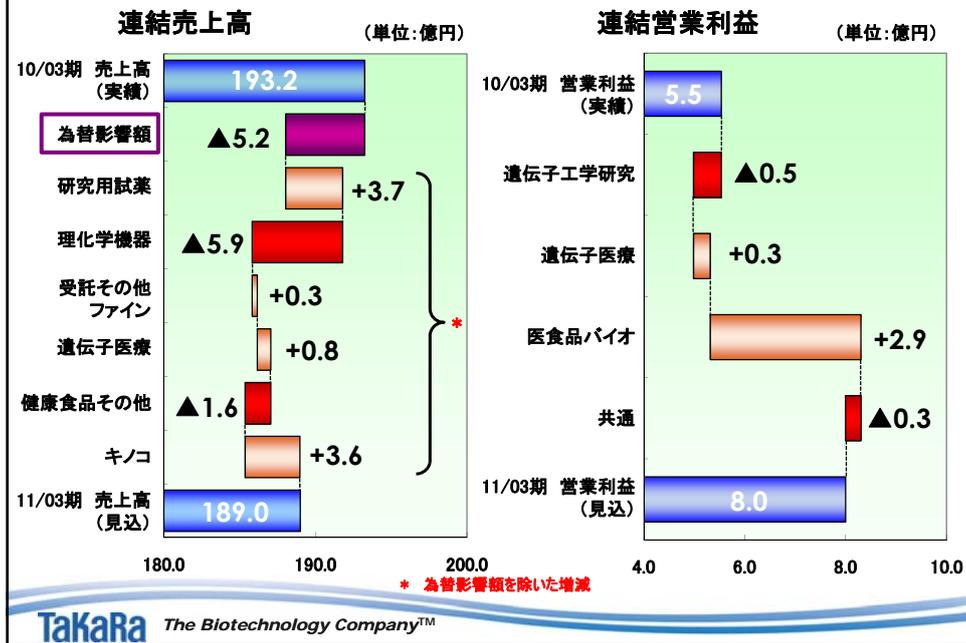
<11/03期 通期見込>

(単位:百万円)

	研究開発費	期初予算比	前期比
遺伝子工学研究	855	▲58	▲14
遺伝子医療	1,657	+36	+57
医食品バイオ	326	▲12	▲323
共通	177	▲9	+2
合計	3,016	▲43	▲278

TaKaRa The Biotechnology Company™

11/03期 通期見込 売上高・営業利益(連結) <前期比増減>



遺伝子工学研究分野の現状と今後の施策(1)



【研究用試薬】

新製品開発の強化による売上拡大

遺伝子工学分野

- PCR関連の新製品の投入による売上維持
- リアルタイムPCRのさらなる売上拡大

細胞生物学分野

- 今後成長が見込まれる、エピジェネティクス、iPS細胞、変異解析、small RNA関連分野における新製品開発の強化

クロンテック新製品 【11/03期 新製品例】

- Tet-On® 3G™ Inducible Expression System
細胞内における遺伝子の発現を高感度に制御
急速に普及が進んでいる高速シーケンサーの関連試薬などの新製品開発に注力

タカラバイオ新製品 【11/03期 新製品例】

- MightyAmp DNA Polymerase Ver.2
血液などの生体試料から直接PCR反応が可能
- PrimeScript RT reagent Kit with gDNA Eraser (Perfect Real Time)
高性能な逆転写酵素を用いたリアルタイムPCR専用逆転写試薬
- PCR、リアルタイムPCRに加え、細胞、タンパク質関連の新製品開発にも注力

遺伝子工学研究分野の現状と今後の施策(2)

【研究用試薬】

従来製品とシナジー効果のある製品の導入

○遺伝子解析の前処理試薬など、従来製品とユーザー/販売チャネルが共通する製品を導入し、製品ラインナップを拡充

11/03期 導入品(例)

- ・マッハライ・ナーゲル社の核酸精製用試薬
遺伝子解析の前処理において核酸精製に使用
- ・ニュージェン社の微量核酸増幅用試薬
正確な遺伝子解析のための微量核酸増幅試薬

マッハライ・ナーゲル社の核酸精製用試薬
国内独占販売契約を締結し、10/1より販売



【理化学機器】

○PCR、リアルタイムPCR装置の産業支援分野への拡販などによる売上拡大



新製品
Thermal Cycler Dice®
Real Time System II
2010年7月発売

【受託】

産業支援(企業向け受託)の拡大

- 高速シーケンス解析受託
- iPS細胞作製受託
- ウイルスベクター関連受託
- 遺伝子合成・タンパク質発現受託

高付加価値メニューの拡充による売上拡大

- 高速シーケンスと次世代データマイニング
- エピジェネティクス関連受託
- iPS細胞関連受託

TaKaRa The Biotechnology Company™

医食品バイオ分野の現状と今後の施策



健康志向食品事業

- ・宝ヘルスクアとのさらなる連携強化、新製品投入などにより、売上を拡大
- ・効率的な研究開発費の投下に努めながら、販売促進や製品化に直結するアプリケーションデータを取得

新製品

「TaKaRa安心のど飴」
10/19発売



売上(連結)	09/03期 通期実績	10/03期 通期実績	11/03期 通期見込
ハタケシメジ	5.8億円	5.9億円	7.7億円
ホンシメジ	1.6億円	1.9億円	2.5億円
ブナシメジ	1.3億円	1.3億円	1.3億円

キノコ事業

- ・自社販売体制をより強固なものとし、ハタケシメジ・ホンシメジの単価を維持しながら売上を拡大
- ・コストダウンのための新技術導入の継続
- ・高付加価値キノコの大量栽培・生産技術の開発

TaKaRa The Biotechnology Company™

遺伝子医療分野の現状と今後の施策(1)



宝日医生物技術
(北京)有限公司
の新工場



売上拡大への施策

1. がん免疫細胞療法の技術支援サービス

- ・本年5月に、百万遍クリニックにおいてレトロネクチン®誘導Tリンパ球療法を開始。
- ・京都府立医科大学等の医療機関と連携しながら、がん免疫細胞療法の技術支援サービスの売上拡大を目指す。

2. がん免疫細胞療法向け培地・バッグの販売

- ・中国子会社のリンパ球培養用培地の新工場が7月より稼働、試験製造中。
2011年1月より本製品の製造開始見込み。
- ・新規販売先の開拓などにより、さらなる売上拡大を目指す。

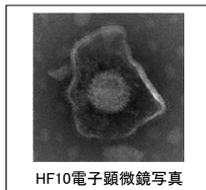
TaKaRa The Biotechnology Company™

HF10事業の買収(1)

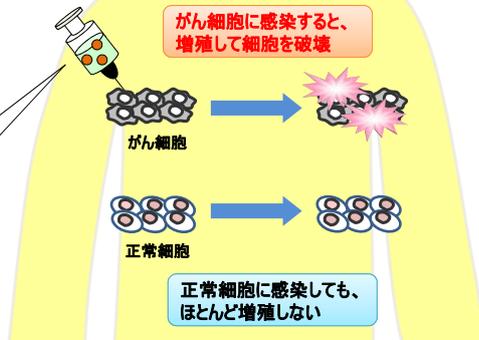
抗がん剤HF10に関する事業をエムズサイエンス社から買収
(2010年10月22日に事業譲渡契約を締結、11月30日に譲渡実行予定)

腫瘍溶解性ウイルスHF10について

- ・HF10は、単純ヘルペスウイルス1型の弱毒型自然変異株
- ・正常細胞ではほとんど増殖しないが、がん細胞に感染すると増殖し、がん細胞を死滅させることが示されている
- ・現在、米国において頭頸部がんを対象とした第I相臨床試験が進行中



安全で新しいメカニズムの
抗がん剤となる可能性



TaKaRa The Biotechnology Company™

HF10事業の買収(2)

HF10の優位性 ~臨床エビデンスの存在~

・名古屋大学医学部附属病院において、乳がん、頭頸部がん、膵臓がんを対象とした3つの臨床研究が行われており、安全性と有効性を示唆する結果が得られている。

臨床研究結果の概要

- ①再発乳がん(6例)では、HF10投与部位のがん細胞のうち、30~100%の死滅が観察された。再発頭頸部がん(3例)でも、HF10が腫瘍内に広がり、がん細胞の溶解がみられた。
- ②いずれの試験においても、副作用等の大きな問題は報告されておらず、HF10の安全性が示唆されている。

・米国第I相臨床試験においても、現在までに安全性に関する大きな問題は生じていない。

HF10事業の買収意義・理由

①遺伝子医療分野の開発パイプラインの拡充

遺伝子医療分野の臨床開発パイプラインを拡充 → 開発リスクの分散、将来収益の拡大

②これまでに築いてきた遺伝子治療関連技術・ノウハウの活用

HF10は、広義の遺伝子治療に分類され、遺伝子治療関連の技術・ノウハウ(ウイルスベクターの解析・製造技術など)を広く活用可能

TaKaRa The Biotechnology Company™

HF10事業の買収(3)

HF10の商業化に向けたスケジュール

→ 2018年度に米国において製造販売承認を取得することを目指す

米国

第I相臨床試験(実施中)

第II相臨床試験

第III相臨床試験

2018年度
製造販売承認

2012年度終了予定

現在の対象: 頭頸部がん

適応(がん種)の拡大
HF10は、他の固形がんでも効果が期待できる

欧州

日本

中国

他国への展開

米国で得たデータを活用し、他国での開発を検討

TaKaRa The Biotechnology Company™

遺伝子医療分野の現状と今後の施策(2)

遺伝子治療プロジェクト

- HSV-TK遺伝子治療 (2017年度の商業化を目標)**
 - ①ドナーリンパ球輸注療法 (再発白血病) 第I相臨床試験実施中
第I相臨床試験をより少ない症例数で終了できるよう、治験実施計画を変更
 - ②ハプロAdd-back (造血器悪性腫瘍) 臨床研究実施中 10/13に1例目の投与を実施
- TCR遺伝子治療 (2013年度の臨床試験開始を目標)**
 - ①三重大学医学部と共同で臨床研究(食道がん)を実施中 8/17に1例目の投与を実施
 - ②次世代ベクターを用いた臨床研究の開始に向けた準備作業を実施中
- MazF遺伝子治療 (2011年度の臨床試験開始を目標)**
ペンシルベニア大学と共同で、米国臨床試験(HIV)開始に向けた非臨床試験などを実施中
米国立衛生研究所(NIH)のDNA諮問委員会によるプロトコルの審査を11/3に通過

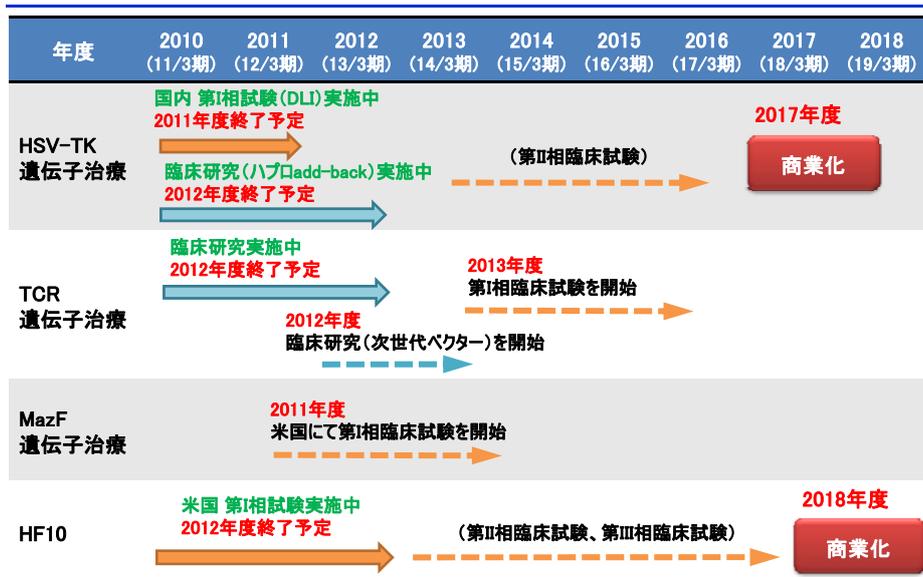
細胞医療プロジェクト

レトロネクチン®誘導リンパ球療法

- ①京都府立医科大学 臨床研究(肝細胞がん)を7月に開始
 - ②三重大学医学部など 臨床研究実施中(食道・卵巣がんなど)
 - ③天津医科大学・中山大學など(中国) 臨床研究実施中 有償治療申請済
- ➡ 引き続き、レトロネクチン®誘導リンパ球療法のエビデンスの蓄積のための臨床研究を推進

TaKaRa The Biotechnology Company™

遺伝子治療プロジェクトの目標



※点線矢印の試験については、期間を含め、詳細は今後検討

TaKaRa The Biotechnology Company™

資料中の当社の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

お問合せ先：バイオインダストリー部
E-mail: bio-ir@takara-bio.co.jp

参考資料

【参考資料】

11/03期 第2四半期 会社別業績

(単位:百万円)

会社名	従業員数**	10/03期 第2四半期 実績		11/03期 第2四半期 実績	
		売上高	経常利益	売上高	経常利益
タカラバイオ(単体)	351	6,175	▲12	5,844	103
瑞穂農林	18	348	▲16	305	▲25
タカラバイオファーマーミングセンター	0	11	1	16	1
きのこセンター金武	7	55	5	54	4
Takara Bio Europe*	25	708	117	622	68
宝生物工程(大連)*	486	1,178	335	1,320	470
宝日医生物技術(北京)*	30	255	46	289	27
Takara Korea Biomedical*	25	247	50	259	47
Clontech Laboratories*	126	2,370	▲70	2,087	▲55
	計1,068				

** 従業員数は、2010年9月30日現在

* 海外子会社は、決算期が1-12月であり、表の数値は各年1-6月の実績



【参考資料】

11/03期 会社別業績 通期見込

(単位:百万円)

会社名	10/03期 通期 実績		11/03期 通期 見込み	
	売上高	経常利益	売上高	経常利益
タカラバイオ(単体)	13,954	752	13,979	599
瑞穂農林	704	▲59	687	▲26
タカラバイオファーマーミングセンター	25	4	35	2
きのこセンター金武	135	22	135	20
Takara Bio Europe*	1,546	224	1,273	119
宝生物工程(大連)*	2,285	609	2,524	779
宝日医生物技術(北京)*	539	75	591	63
Takara Korea Biomedical*	495	109	517	72
Clontech Laboratories*	4,297	▲339	3,902	▲155

* 海外子会社は、決算期が1-12月であり、表の数値は各年1-12月の実績・見込



【参考資料】 11/03期 第2四半期 セグメント情報(連結)

単位(百万円)

	遺伝子工学 研究	遺伝子 医療	医食品 バイオ	共通	計
<10/03期 4-9月>					
売上高	7,542	165	983	▲0	8,690
売上総利益	4,442	64	73	▲0	4,580
販売費及び 一般管理費	2,639	728	500	720	4,589
内、研究開発費	459	640	323	80	1,502
営業利益	1,803	▲664	▲427	▲720	▲9
<11/03期 4-9月>					
売上高	7,104	246	1,093	▲0	8,443
売上総利益	4,234	111	136	0	4,483
販売費及び 一般管理費	2,585	651	355	696	4,288
内、研究開発費	444	566	151	77	1,240
営業利益	1,649	▲539	▲218	▲696	194

TaKaRa The Biotechnology Company™

【参考資料】 11/03期 通期見込 セグメント情報(連結)

単位(百万円)

	遺伝子工学 研究	遺伝子 医療	医食品 バイオ	共通	計
<10/03期(実績)>					
売上高	16,689	392	2,245	▲1	19,325
売上総利益	9,436	165	438	▲0	10,039
販売費及び 一般管理費	5,284	1,730	1,021	1,449	9,485
内、研究開発費	870	1,599	649	175	3,294
営業利益	4,151	▲1,565	▲583	▲1,449	553
<11/03期(見込)>					
売上高	15,997	466	2,435	0	18,900
売上総利益	9,364	249	446	0	10,060
販売費及び 一般管理費	5,267	1,781	731	1,479	9,260
内、研究開発費	855	1,657	326	177	3,016
営業利益	4,096	▲1,532	▲284	▲1,479	800

TaKaRa The Biotechnology Company™

【参考資料】 遺伝子治療・細胞医療の臨床開発プロジェクト

	対象疾患	提携先	現状・今後
HSV-TK遺伝子治療 (ドナーリンパ球輸注療法) (治験)	再発 白血病	国立がん研究 センター中央病院	・2008年10月に第Ⅰ相臨床試験開始 ・2011年度に終了予定
HSV-TK遺伝子治療 (ハプロタイプ一致造血幹細胞移植後の ドナーリンパ球追加輸注療法) (臨床研究)	造血器 悪性腫瘍	国立がん研究 センター中央病院	・2009年12月に臨床研究開始 ・2012年度に終了予定
TCR遺伝子治療・wtMA24 (臨床研究)	食道がん	三重大学医学部	・2009年8月に臨床研究を開始 ・2012年度に終了予定
TCR遺伝子治療・siMA24(RN-T) (臨床研究)	食道がん	三重大学医学部 等	・2012年度に臨床研究を開始予定
TCR遺伝子治療・siWT24(RN-T) (臨床研究)	造血器腫瘍 脳腫瘍	三重大学医学部 等	・2012年度に臨床研究を開始予定
MazF遺伝子治療	HIV	ペンシルベニア大学	・米国での臨床試験を2011年度に開始予定
HF10 (治験) ※2010年11月30日承継予定	頭頸部がん	ピッツバーグ大学等	・米国第Ⅰ相臨床試験実施中、2012年度に終了予定
レトロネクチン®誘導Tリンパ球療法 (臨床研究)	食道がん、 卵巣がん等	三重大学医学部 等	・2008年3月に臨床研究を開始 ・2011年度に終了予定
レトロネクチン®誘導Tリンパ球療法 (臨床研究)	肝細胞がん	京都府立医科 大学	・2010年7月に臨床研究を開始 ・2015年度に終了予定
レトロネクチン®誘導Tリンパ球療法 (臨床研究)	難治性がん 肝細胞がん	天津医科大学 中山大學	・天津医科大学、中山大學で有償治療の申請済み。 細則の公表待ち。

TaKaRa The Biotechnology Company™